

何事かを成すとはどういうこと  
なのだろうか

kiriharaaoi

## 「責難は成事にあらず」

---

「責難は成事にあらず」

小野不由美「華胥の幽夢」に収録された短編『華胥』に登場する言葉である。

2002年にこの短編を読み、以来十年間、この一つの言葉を何度も実感し、体感することになった。

「人を責め、非難することは、何かを成すことではない」

この言葉はまさしく日本の政治に対する私の、ひょっとすると日本国民全ての姿勢を指摘しているように感じられた。

政治をよく知らず、社会がどのように成り立っているのか知らない私のような若いモンには特に多いだろう。

政治に対する理想を追求した、無責任な文句。Facebookやtwitterなどで情報を気軽に発信受信することができるようになり、政治に対する不満は自分だけのものではないことを知った。しかもその数はかなりのものである。

福島原発事故、TPP問題、政治家汚職事件、消費税増税、米軍基地移設問題。数え上げればきりがないほどの政治課題。その一つ一つに国会では見えないところで無責任な意見は挙がっている。

国会中継やニュースを見れば、必ず私は口にする。「ああすればいいんじゃないの」「こうしてくれればいいのに」と。覚えのある人もいるのではないだろうか。それは無責任に誰かが自分の気に入るように何かを成してくれることを待つ姿勢。

そうした言葉を口にするたびに『華胥』の言葉が浮かび、責めることは何にもならない、私ごときが動いたところで何も変わらないと思う反面、行動に移してこそ何事かを成すということなのではないかと考えてきた。

誰かを責めることを止め、行動に示せば何かが変わるかもしれないという希望はある。だが反対に、この希望を妄信することはたくさんの人を悲しませる結果をも招くかもしれないという懸念を抱かざるをえない。

「責難は成事にあらず」。では、一体何をすれば何かを成すことになるのか。

これからもずっと考え続けることになるはずの言葉である。